

令和3年度事業報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

I. 学校法人の概要

本学校法人大阪貿易学院は、教育基本法及び学校教育法に従い、建学の精神に則って学校教育を行い、有為な人材を育成することを目的としています。この目的を達成するために設置された本学校法人大阪貿易学院の令和3年度における概要は、以下のとおりであります。

1. 建学の精神と教育目標

設立当初は、外国語に堪能な国際人の育成として、継続的努力を要する語学の修得を主眼として設立された。

校訓「研精して倦まず」を「知・徳・体すべてにわたって自己を磨き続ける」と解し、教育活動の実践的な柱としてきた。

現在の教育目標を、下記に示す。

- ① 男女共同参画社会において、社会のリーダーとして活躍する人間の育成
- ② 文系・理系を問わず、理数の素養を身につけ、21世紀の情報化社会に対応できる人間の育成
- ③ 世界的視野に立ち、国際感覚に富む人間の育成
- ④ 思いやりの心を持ち、社会的常識を備えた人間の育成
- ⑤ 正しい生活習慣を身につけた、心身ともに健全な人間の育成

2. 沿革

大正 2年	大阪商業会議所が国際人育成のため語学教育に重点をおいた専修学校を設立し、経済援助を行うことを決定。
大正 3年	12月1日 大阪貿易語学校を設立、会頭土居通夫が初代理事長に就任。
大正 11年	大阪市都島区東野田9丁目に新校舎落成。
昭和 20年	戦災により校舎焼失。
昭和 21年	会頭 杉道助 が理事長に就任、復興に尽力。
昭和 23年	学制改革により大阪貿易学院と改称。新制商業高等学校となり、現在地に新校舎完成。
昭和 39年	普通科設置。
昭和 54年	英語科設置。
昭和 59年	全校舎冷暖房設備完備。
昭和 61年	普通科Ⅰ・Ⅱ類と学科を改組。
平成 3年	中学校開校。
平成 4年	「大阪商工会議所主管」が外れる。
平成 6年	高等学校普通科6年編入コース・Ⅰ類と学科を改組。
平成 7年	開明中学校・高等学校と改称。
平成 13年	中学校男女共学化。中学「理数コース」設置。
平成 16年	高等学校男女共学化。
平成 18年	中学既設の「理数コース」と併せ「スーパー理数コース」設置。
平成 19年	共学1期生(第92期生)、高校卒業。
平成 24年	共学6期生(第97期生、スーパー1期生)、高校卒業。 校舎全面建替工事開始、高等学校は仮設校舎に移転。
平成 26年	学院創立100周年。新校舎完成。グラウンド人工芝化。
平成 27年3月	体育館改修工事完了。
平成 28年3月	清滝テニスコート改修工事完了。
平成 29年9月	全教室電子黒板設置。
令和 4年1月	全教室にWi-Fi環境を整備。

3. 主要な運営指標等の推移

5月1日時点

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
在籍者総数	1,701	1,677	1,602	1,542	1,527	1,538
高校	871	870	836	828	804	766
中学	830	807	766	714	723	772
高校専願 志願者	272	278	284	266	240	236
高校併願 志願者	94	57	53	51	32	43
中学志願者	1,715	1,308	1,234	1,330	1,126	1,530
教職員総数	150	151	148	148	143	150
本務教員	94	95	92	92	86	90
兼務教員	29	29	27	26	27	30
本務職員	8	8	7	7	7	7
兼務職員	9	9	9	10	10	11
その他職員	10	10	13	13	13	12

4. 所有地・建物等

①所有地（学校用地）

本校地	大阪市城東区野江1-9-9	面積	11,140㎡
清滝グラウンド	四條畷市清瀧1472-1	面積	26,368㎡

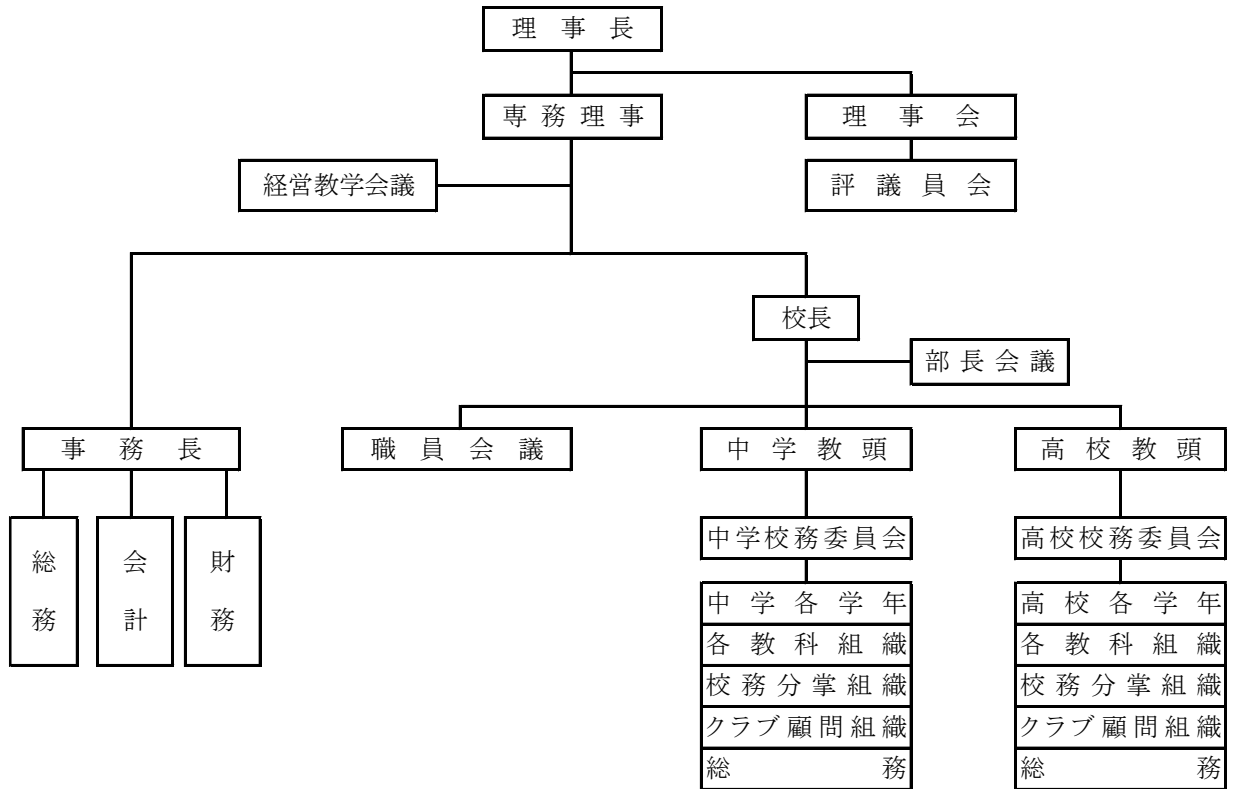
②建物

校舎	面積(㎡)
校舎	19,193.89
体育館	2,772.15
合計	21,966.04

③図書蔵書数 49,922冊

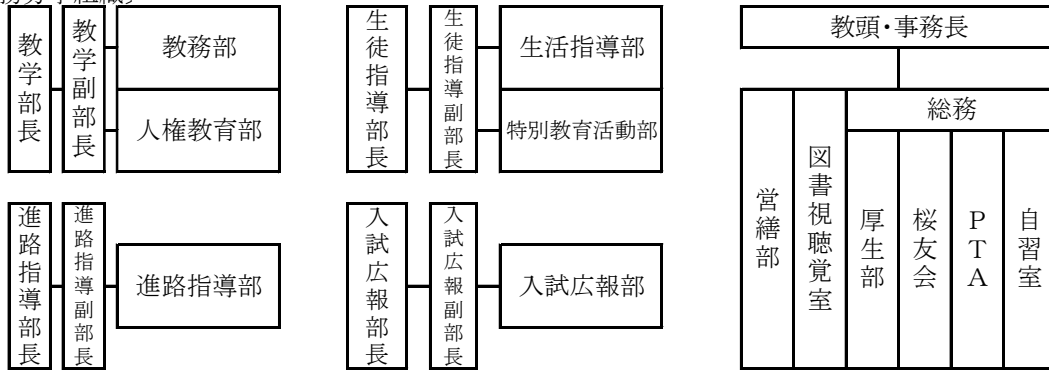
5. 組織・機構

令和3年度学校運営組織 [組織図概要]



[学年組織] 中1・中2・中3・高1・高2・高3の各学年主任・学年副主任

[校務分掌組織]



[経営教学会議] 学内理事・評議員

[部長会議] 専務理事・校長・中学教頭・高校教頭(2名、内1名は進路指導部長兼務)・事務長・教学部長・生徒指導部長・入試広報部長

[校務委員会] 中学教頭・高校教頭(2名、内1名は進路指導部長兼務)・事務長・教学部長・生徒指導部長・入試広報部長・各学年主任・各学年副主任・中学教務センターで常時運営し随時他の各校務分掌主任が参加する。中学、高校でそれぞれ設置。

[クラブ顧問組織] 中学・高校 運動部・文化部

[その他の各種委員会] 入試企画会議・カリキュラム委員会・給食委員会・いじめ対策委員会、人権教育推進委員会・職員安全衛生委員会・学校安全対策委員会・健康教育委員会(小委員会として生徒相談委員会、特別支援教育校内委員会、結核対策委員会、健康教育委員会を含む)・ICT教育研究会

6. 在籍生徒数

令和3年度（令和4年3月31日現在）

	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計
生徒数	255	222	243	720
男子	141	128	122	391
女子	114	94	121	329
クラス数	6	6	6	18

	高校1年生	高校2年生	高校3年生	合計
生徒数	247	276	279	802
男子	133	146	141	420
女子	114	130	138	382
クラス数	7	7	7	21

7. 教職員数

令和3年度（令和4年3月31日現在）

	合計	男性	女性
本務教員	89	63	26
兼務教員	25	8	17
本務職員	8	5	3
兼務職員	11	6	5
その他職員	13	12	1
総教職員数	146	94	52

8. 法人役員の状況（令和3年4月1日現在）

理事8名、監事2名、顧問1名

	理事	監事	顧問
理事長	西村 貞一	廣瀬 恭子	久我 一郎
専務理事	澤田 明	森田 文明	
学校長	林 佳孝		
	加藤 好文		
	立野 純三		
	早坂 元実		
	森脇 靖（事務長）		
	竹森 順一（中学教頭）		

9. 桜友会（卒業生組織）について

i. 令和3年度の主な活動

3回の役員会開催（内2回は新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い郵送による書面審議で対応）。6月10日に会報発行。

例年6月下旬開催の定時総会はコロナの影響により11月27日（土）に延期したものの、再度の急激な感染拡大の状況を受け2年連続、開催を中止とした。これに伴い、当初出席予定の会員に対し予定議題資料を郵送し、書面により意見等の意思表示できる機会を設けて対応した。

ii. 令和3年4月1日現在の役員は、下記の通り。

会 長	吉田 友好 (55期)	名誉会長	清水 信次 (28期、ライフ会長兼CEO)
副会長	清水 省吾 (52期)	相談役	平井 政博 (39期、元会長)
副会長	原田 哲夫 (58期)	相談役	殿浦 嘉郎 (42期、元会長)
副会長	白木 幸三 (62期)	相談役	西野 修 (51期、前会長)
事務局長	神田 市朗 (52期)	顧問	森田 文明 (元校長)
監 査	西川 貴夫 (63期)	顧問	早坂 元実 (前校長)
監 査	桜本 芳久 (65期)		

II. 学校法人の経営概要

1. 財務状況について

① 収入について

- 入学生徒数は、安定しており学費収入も安定している。
- 大阪府からの経常費補助金は、高校での2%カットは平成27年度より解消されたが、中学校は依然として15%カットが継続されている。また、大阪府の経常費補助単価は、国の補助単価を高校で25,779円、中学では69,021円と大きく下回っている。

② 支出について

- 就学支援金に関する学校負担金（奨学金）は、1,263万円余であった。

③ 会計処理について

生徒からの徴収金等は、全て学校会計基準に基づいて、適切に処理している。また、資産運用についても、運用規定に基づき運用している。

III. 教学の概要

1. 教育事業の概況

(1) 教学に関する事項

令和3年度は、前年度に引き続き、新型コロナによる教育活動上の制約・制限を余儀なくされた。それでも、授業や行事については、感染拡大防止対策を取りながら、できる限り実施を追求した。

授業については通常の対面授業を行った。中1のオリエンテーション合宿は宿泊なしで校内で実施し、中2の理科実習は昨年実施できなかった中3（旧中2）と合わせて日帰りで行った。中学の弁論大会や音楽発表会、マラソン大会は中学全体を一堂に会することは避け、学年別で実施した。また中3夜間歩行は1クラス当たり2台のバスを投入して移動のバス内の密を避ける形で実施した。体育大会は中・高とも前年度に続き保護者の観覧なしで実施し、また文化祭は10月末の平日に延期しての

実施となった。中3の修学旅行は1学期から11月に延期して実施することができた。

しかし、高1～3の勉強合宿や中2・高1のスキー合宿など宿泊行事の多くは中止せざるを得なかった。高2の修学旅行は2回延期して実施を試みたが年度内には実施できず、今年度（令和4年度）4月に実施した。

①中学校

現在では、中高の在学生の95%以上が6年コースの生徒であり、「中学からの入学生をしっかり教育し伸ばすこと」が一層求められている。

新校舎での生活がスタートして以来、中学では各学年、週4回の給食の提供を実施しており、令和3年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全員が正面を向いて、一切会話無しという形式ではあったが、無事実施することが出来た。また、この2年間は授業での水泳実習こそ出来なかったものの、例年はプールでの水泳実習や和室を使つてのクラブ活動など、教育活動の幅も広がっている。生徒、保護者の意見も良く聞いて適切な形で更に改善、充実していきたい。

英検に関しては、令和3年度の中学3年生は、中学修了までに70.1%の生徒が準2級以上を取得した。早い時期に準2級に合格することで、更に上を目指そうと自主的に頑張るきっかけにもなり、引き続き、積極的に取り組んでいきたい。

②高等学校

今春卒業した高校3年生は、新型コロナにより高2の春からの長期の休校や、学校再開後も様々な教育活動上の制限が課される中で学校生活を過ごし、2年目となった大学入学共通テストの出題の難化で全国平均が大幅に下がる中で大学入試を受験した。279名（スーパー11期で、107期生に当たる）の大学入試結果（浪人含む）は、東大1名、京大18名、阪大9名、神大11名、国公立大医学部9名（防衛医大1名を含む）、現浪全体で183名が国公立大（大学校4名を含む）に合格し、卒業生比では65.6%であった。現役では142名が国公立大（大学校2名を含む）に合格し、卒業生比で50.9%であり、現役合格率は6年ぶりに5割を超えるなど、立派に頑張ってくれた。また学校推薦型・総合選抜型入試での合格者は40名に上り、京都大学の特色入試では7名（現役6名）が合格し、全国1位となった。

高校2年生（276名）は、1学期実施予定であった北海道修学旅行を9月に、さらには行程や日数も縮小して3月に延期したが、いずれも新型コロナの感染拡大の時期に当たり、実施できず、新年度の4月に何とか実施することができた。また高1・高2の2年間、勉強合宿が実施できなかったが、学年は生徒の学習に対する意欲を高めようと様々な取り組みを行ってきており、特に学年として高1時より重視してきた数学の学力定着については、改善の兆しが見えてきている。

高校1年生（245名）は、海外語学研修やスキー実習は中止となったが、恒例の卒業生の協力による「開明大学」は実施でき、文理選択の指導などを通じて進路意識も高まってきた。令和3年度の高1時は内部進学生6クラス、編入1クラスの、学年7クラス構成であったが、令和4年度の高2時には、内部進学生と編入生を混合して学年6クラス編成となる。

③令和3年度高校卒業生の進路（令和4年度大学入試合格・進学状況）

i. 今春高校卒業生の進路に関わる主な指標は、次の通りである。

- | | |
|----------------|------------------------------|
| a. 卒業生数 | 279名（7クラス） |
| b. 大学進学希望者 | 279名 |
| c. 大学進学者数 | 199名（現役生進学率 $c/a = 71.3\%$ ） |
| d. 現浪国公立大学合格者数 | 183名（ $d/a = 65.6\%$ ） |

※東京大1、京都大18、大阪大9、神戸大11、大阪公立大21など。

※現役生合格者数 142名 (142/a = 50.9%)

※大学校4名(現役2名)を含む。

e. 現浪国公立等医歯薬系 14名(医、歯、薬)

※防衛医科大学校1名(現役)を含む。

f. 現浪私立大学合格者数 639名(うち関関同立216名、延べ数)

g. 現浪私立医歯薬系 75名(医、歯、薬 獣医5を含む)

ii. 詳細は、別紙資料による。

④授業改革

基礎学力を定着させ、生徒の学習意欲を高めるためにも、目先の勉強で生徒を追い立てるのではなく、よく考えて勉強する良い学習習慣を身に付けさせたい。この指導を「授業改革」というスローガンの下進めてきた。生徒が授業の予習・復習に時間を掛ける、授業の準備をしっかりと授業を受ける、これが学習の基本であるが、そこを大事に学習の改善ができるようにしていこうというものである。現在、必要な小テストや確認テストなどは授業の中で行い、授業外での小テストを多用することは避けている。

⑤教員研修及び講演会

学校教育活動のグレードアップをはかるための教職員研修を実施している。全教職員対象の研修、部長・学年主任・副主任の合同研修、新人研修など。また、教科指導力の向上を目指し、学期毎の研究授業を実施し、また学外での教科研修会へ参加も推奨している。令和3年度は、ここ数年にわたり本校生徒向けに講演していただいている兵庫県立大の竹内和雄先生をお招きして、本校生徒を取り巻くネット問題について教員対象の研修を実施した。

生徒を対象とした講演会としては、スマホやSNSを用いたいじめや人権侵害などが全国的に問題になっており、前述の竹内先生の講演を毎年実施している。また、進路講演会としては、例年、学術分野の第一線で活躍されている方をお迎えして、学びへのいざないや、研究と社会とのつながりについてなどお話しして頂いている。この間に講演して頂いた方は以下の通り。

2010年度 益川 敏英 先生(2008年ノーベル物理学賞受賞)

2011年度 高須 直子 先生(iPS細胞研究所知財契約管理室長)

2012年度 橋本 樹明 先生(JAXA宇宙科学研究本部教授)

2013年度 戸田山 和久 先生(名古屋大教授)

2014年度 山崎 直子 先生(宇宙飛行士)

2015年度 杉本 淑久 先生(京都大教授)

2016年度 池内 了 先生(総合研究大学院大学教授)

2017年度 中村 哲 先生(医師、NGOペシヤワール会代表)

2018年度 本校卒業生(経産省宇宙産業室勤務、JAXA勤務、京都大助教)

2019年度 梶田 隆章 先生(2015年ノーベル物理学賞受賞)

2020年度 上 昌広 先生(医師、医療ガバナンス研究所理事長)

2021年度 河田 恵昭 先生(人と防災未来センター所長、関西大社会安全センター長)

⑥生徒指導

「学習指導と生活指導は車の両輪」が本校の生活指導の基本である。学習を支える基本的な生活習慣、生活規律の確立に向けた指導を強めると共に、豊かな倫理観を養う教育に努めた。

平成 25 年 6 月に制定された「いじめ防止対策推進法」を受け、本校でも「学校いじめ防止基本方針」を策定し、ホームページに公表している。生徒、保護者、教職員が心をひとつにして、深刻ないじめで悩み苦しむ生徒がいないように努めてきた。令和 3 年度も、教職員に対して、いじめの定義の再確認といじめの早期発見に関する研修を実施するとともに、生徒、保護者には学校のいじめ・体罰などの相談窓口について文書で明示し、また学期ごとに「いじめアンケート」を実施し、早期発見に努めている。

制服について、女子生徒の中にスラックスを希望する生徒が出てきており、11 月から女子の制服について現状のボレロのまま、スラックスをオプションとして導入した。

⑦学校評価

令和 3 年度も、全生徒・保護者を対象に学校評価アンケートを行った。授業担当者の個別評価も導入している。それらを踏まえて教職員の自己評価アンケートも実施している。令和 3 年度の生徒、保護者のアンケート回収率は中学校では生徒 79.2%・保護者 81.8%、高校では生徒 61.8%・保護者 60.6%であった。